

014年産のリンゴ輸出量は、日本全体で3万115トとなっている。国の統計では県別の内訳が公表されていないが、台湾、香港など輸出先の出回り状況や各県が報告している輸出量などから推

計して「9割以上が青森県産」と公表している。以前大蔵省時代に県別統計を出していたことがあり、当時は97%が本県産だとされていた。

最近、農水省関係者は輸出検査に回ったリンゴの99%、輸出されたリン

求められる販路の拡大

ゴの97%は本県産だと非公式に言っている。植物検査がいらないうる香港市場で他県産のリンゴをたまたに見かける程度で、ほと

5万トン時代へ 青森リンゴ輸出

12

んどが本県産で占められている。約9割が本県産だとすると、推計2万7104トとなるが、これは国内での県外市場出荷実績27万5465ト(14年産)のちょうど1割に相当する。

国内市場は今後縮小

この規模のマーケットは国内市場と比較すると市場規模4番目となる九州市場向け2万8234トに匹敵する。九州の人口は1323万人。これだけのマーケットが輸出によって新たにもたらされた。いかに大きな効果が出ているか、誰でも容易に想像がつくだろう。

国勢調査の速報値によると、15年10月1日時点の日本の総人口は1億2711万人となり、初めて減少に転じた。国立社会保障・人口問題研究所は、60年までには8674万人まで減少すると予想している。総務省家計調査によると、リンゴの1人当たりの消費量は、1991年の5.2キから2014年には4.2キまで減少している。

世帯主の年齢階層別に見ていくと、29歳以下はわずかに0.8キ、60歳代は5.9キ、70歳以上は8.6キと、リンゴは年配者が多く食べている。しかも、若い人が将来年配になってからリンゴを食べ出すことはなく、若い時の食習慣が維持されることが分かっている。

このように国内市場は、今後縮小していくことは間違いない。何とか販路を広く世界に求めていく取り組みが欠かせない。明治時代に青森の先人が始めたリンゴ輸出。今、あらためてその重要性が認識させられる。(県りんご輸出協会事務局長 深澤守)

本県産リンゴの国内出荷先

県外出荷実績(2014年産)
275,465ト

北海道
12,207ト

沖縄
328ト

東北
6,138ト

中部
40,285ト

中国
14,950ト

九州
28,234ト

関東
109,481ト

四国
7,519ト

近畿
56,323ト

※「青森りんご」平成27年度版(県りんご果樹課)の資料を基に作成